

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2016

課題番号：23520831

研究課題名(和文) 明治国家形成期における華族の政治史的研究

研究課題名(英文) Research on political history of a former feudal domain noble in the beginning of the Meiji period

研究代表者

松尾 正人 (Matsuo, Masahito)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00157265

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、旧藩華族について、史料に基づいた実証的な研究を行い、旧藩華族の国家的役割及び社会的意義を明らかにすることを目的とした。第一に、山口県文書館に所蔵されている毛利家文庫の調査を行い、廃藩置県後の大名家当主に関する資料を収集してその内容を分析した。これにより、廃藩置県とその後の長州藩の動きを明らかにし、幕末長州藩研究に新たな視点を提起することができた。毛利家研究の前進に結びつけることができたと思われる。第二に、徳川幕府崩壊後に徳川家を相続し、静岡藩主となった徳川家達について、英国での調査や静岡県立図書館所蔵史料の調査を実施して、史料を収集し、考察を行った。

研究成果の概要(英文)：This research aims to clarify the role and social significance of a former feudal domain noble by research method using historical materials. First, the researcher conducted a survey of Mori's historical materials at the Yamaguchi Prefectural Archives, and collected and analyzed historical materials related to Mori family after Haihan-chiken. This survey clarified the movement of Choshu-han after Haihan-chiken and raised a new viewpoint to the research of Choshu-han in the end of the Edo period. Second, the researcher conducted a survey of lesato TOKUGAWA, who succeeded to Tokugawa family after the collapse of the Edo Bakufu and became Shizuoka seigneur, at the Shizuoka Prefectural Central Library and in the United Kingdom.

研究分野：人文学

キーワード：毛利元徳 毛利敬親 廃藩置県 山口県文書館 忠正公伝 忠愛公伝 徳山藩 岩国藩

1. 研究開始当初の背景

近代国家形成期の華・土族の動向について、明治4(1871)年7月の廃藩置県断交後の旧藩士族の諸問題に関する実態的な研究が少なかった。研究代表者は『廃藩置県』(中央公論社、1976)、『廃藩置県の研究』(吉川弘文館、2001)を刊行し、その後も旧米沢藩の宮島誠一郎や旧高知藩の田中光顕などに関する論文を公刊してきた。しかし、廃藩置県後の旧藩知事である華族や旧藩士族の研究については、これまで大久保利謙『華族制の創出』(吉川弘文館、1993年)、千田稔「華族資本の成立と展開」(『社会経済史学』52-2、1985年)、落合弘樹『明治国家と土族』(吉川弘文館、2001年)などが、制度的・財政的な問題を取り上げている程度である。近年に旧柳川藩立花家を取り上げた内山一幸「旧藩主家の家政と家令・家扶」(『日本歴史』699号、2006年)、同「明治二十年代における旧藩主家と地域社会」(『日本歴史』723号、2008年)、真辺将之「明治期『旧藩士』の意識と社会的結合 旧下総佐倉藩士を中心に」(『史学雑誌』114-1、2005年)など、やっと具体的な研究が緒についてきた段階であった。

特に旧藩華族の多面的な研究は少なく、個別的な事例分析だけにとどまらない全国的、総合的な研究を進めることが重要な課題となっていた。

本研究は、これまで研究の少なかった旧藩華族について、史料にもとづく実証的な研究を進めることとした。旧藩華族の国家的役割、社会的な意義に関する実証的な研究は、明治・大正期の政治史研究のみならず、外交や経済史研究の視野を広げ、他の分野の研究を刺激するものとなる。

2. 研究の目的

本研究では、旧長州藩毛利家や旧幕府徳川家などに関する資料を調査・分析し、具体的な実態研究を進める。

旧長州藩知事の毛利元徳は、廃藩置県後の山口県における教育振興や旧藩士族の授産事業に参画し、明治10年5月に第十五銀行頭取になっている。さらに明治17年には公爵を授けられ、同33年に貴族院議員となった。本研究では、山口県文書館や山口県史編纂室所蔵文書を調査・撮影し、元徳の旧藩士族への対応、政治・社会的な活動についての具体的な分析を重ね、新たな事実を明らかにしたい。長州藩毛利家については、毛利元徳

家だけでなく、徳山毛利家や長府毛利家についても史料の調査と分析を進めたい。

また、旧幕府徳川家については、明治元年閏4月に徳川宗家を相続した徳川家達はもとより、徳川慶喜や昭武などについても調査・分析の対象に加える。徳川家達は、明治10年6月に英国に留学し、15年に帰国した17年に公爵を授けられ、36年に貴族院議長となって昭和8年まで在職している。その間、大正10年のワシントン会議に全権委員として参加したのをはじめ、日本赤十字社社長・日米協会会長・華族会館議長などを歴任した。徳川宗家の史料は徳川林政史研究所を管理しており、それらの調査と収集を行い、その政治・外交的な活動に関する具体的な研究を進める。

なお、旧藩華族の明治・大正期の多彩な活躍とその動向については、旧小田原藩大久保家などの中小藩の関係史料についても追及し、旧中小藩や旧公家などを含めた明治・大正期の華族に関する総合的な研究をめざしている。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、まず旧長州藩毛利家と旧幕府徳川家の史料を的確に調査・分析し、史料収集・整理を確実にする。

旧長州藩毛利家は山口県文書館、旧幕府徳川家は徳川林政史研究所などに出張調査を行い、史料の収集・整理を行う。華・土族の政治的動向に関係する史料を分析し、関係文献との比較・検討を行う。

(1) 準備作業として、人件費を活用して大学院生による各種文献資料の所在調査とデータ化、および確認作業を行った。

また、収集した史料・関係文献等についても、大学院生・学部生に依頼し、パソコンを用いた電子データ化を進めることとした。

(2) 2011年12月24日から28日まで、山梨県立図書館・県立博物館や県内の史料保存施設に出張、調査を行った。そこでは、幕末・明治期の旧幕臣関係者の史料の調査・収集を実施した。同期間中には、山梨県立博物館学芸員小畑茂雄氏に、同館所蔵の史料目録の調査・収集に関する協力を受け、幕末・明治期の旧幕臣関係士史料の概要と史料収集の経緯、関係者の居住先などに関する助言を得ることができた。

(3) 東京大学史料編纂所で高知藩福岡孝弟関係史料の調査・収集を行った。2012年に、

土佐藩山内家の家老五藤家文書の調査・収集に着手し、6月13日から16日まで高知県安芸市の安芸市立歴史民俗資料館に出張した。同館所蔵の五藤家文書については、すでに東京大学史料編纂所が調査を実施しており、その調査報告を利用して事前に許可を得ていたため、初日から具体的な史料の閲覧と撮影を行うことができた。

(4)2012年2月に、山口市の山口県文書館で毛利家文書の調査・収集を始め、以降、山口での史料調査を毎年行った。2012年度には、主に同館が所蔵する「両公伝史料仮目録」を利用し、同史料の具体的な活用について検討した。忠正・忠愛両公伝史料は2,000冊近い大部で、その関連資料の選別と原資料との照合作業は、旧大名華族・旧藩士族の実態を解明するために意義深い。

2013年には、長州藩の毛利敬親・元徳関係史料の調査・収集を進めた。山口県文書館の「毛利家文庫目録」から、敬親・元徳両者の維新期の動向、その後の活動に関係した史料を調査し、新たに元徳の家扶の日記を見つけることができ、写真撮影等を行った。明治の旧大名の動向・生活がわかる興味深い史料で、写真の整理を進めると共に、その内容分析を行った。この明治期の元徳については、銀行経営に参加すると共に、土族授産や北海道移民の支援にも尽力していた。

2014年からは、収集・写真撮影等を重ねてきた史料について、それらを原稿用紙に筆写し、史料リストと史料集の作成に向けた作業に着手した。御家流のくずし字であることから、パソコンに打ち込む作業も、一般のアルバイト等に期待できないのが課題で、勤務の間を利用して、資料目録、史料集の作成に取り組むこととなった。

(5)2012年に英国のロンドンとエジンバラで徳川家達関係の調査を行った。徳川幕府崩壊後に徳川家を相続し、静岡藩主となった家達は、廃藩置県後に静岡から東京に戻り、徳川家の当主として成長し、明治10(1877)年6月に英国へ留学している。徳川家達の主な滞在先など、英国での留學生活を知るためにも現地調査が欠かせない。エジンバラ城を目前に見る家達の滞在先を確認し、現地を調査・見学できた意義は大きい。ロンドンの国立公文書館(The national archives)でも、同時期の日英関連資料の調査を進めた。

2013年4月以降は、国内での研究に全力をあげ、これまで調査・収集を行ってきた徳川

家達関係史料について、その整理および関連史料の分析を進めた。

(6)関係図書として、泰雲堂書店を通じて『三本木開拓誌』(上、中、下巻)、『印旛沼経緯記』等を購入した。旧藩の土族による開拓・授産事業、および明治政府の殖産興業政策に連繋した干拓事業に関する書籍である。

4. 研究成果

(1)2011年の山梨県立図書館・県立博物館等へ出張調査で、幕末・明治期の旧幕臣関係者の史料の調査・収集を実施でき、山梨県立博物館学芸員小畑茂雄氏の協力を得て、幕末・明治期の旧幕臣関係史料の概要を把握することができた。

(2)2013年度には山口県文書館の毛利家文庫の調査を通じて、最後の長州藩主毛利元徳の廃藩置県後の家扶日記を発見することができた。これまでの毛利元徳の「忠愛公伝」の調査・分析と並行して、家扶日記を丹念に分析することで、廃藩置県後の大名家当主の生活の実態が明らかになるとともに、元徳の同時期の行動、毛利家と旧長州藩士族との関係を解明することが可能となった。

また、山口県文書館の「毛利家文庫目録」(1)~(5)を利用し、幕末の藩主であった毛利敬親の忠正公関係史料からは当該期の長州藩の動向が、敬親の後継となった毛利元徳の忠愛公関係史料からは、廃藩置県とその後の長州藩の動きを明らかにすることができ、幕末長州藩研究に新たな視点が提起できたように思う。

この「毛利家文庫目録」は、雲上、柳営、公統、政理など、多岐にわたる項目で膨大な毛利家文書が分類されており、歴史史料の貴重な集積となっている。幕末政治史や戊辰戦争関係の史料も多く、その丹念な分析は、長州藩の幕末維新関係新研究となることが期待できる。吉川家や小早川家などの分家等の史料、幕末・維新の関係史料からは、諸隊一件などの混乱が明らかとなり、忠正公・忠愛公両公の記録も長州藩の幕末維新の動向を解明できる貴重な史料であった。

(3)江戸開城後の徳川家については、6歳で徳川家を相続した徳川家達の動向を追及した。旧幕府静岡藩の廃藩置県に至る過程、家達の成長と周囲の期待、明治国家のもとでの家達の位置についての分析は、近代日本と土族の問題を考える上で重要な蓄積となる。

特に明治6(1873)年の佐賀の乱から10年の西南戦争に至る士族反乱の時期において、徳川家およびその当主家達の動向は無視できない。静岡移封の苦難、徳川慶喜の後継者となった家達の成長と周囲の期待、静岡から東京へ復帰の過程を主に調査した。静岡時代の徳川家については、『静岡県史』の成果を活用するとともに、静岡県立図書館所蔵の各種史料を調査し、実態的な考察を進めた。

(4)大名華族については、「朝敵」とされた小田原の大久保家、静岡に移った徳川慶喜などの動向も追究し、小田原市立図書館や静岡県立図書館での史料調査を進めた。具体的には、小田原市立図書館の有信会文庫所蔵資料の閲覧・筆写、徳川慶喜の隠棲した静岡の宝台院や浮月楼などの調査・写真撮影、静岡県立図書館・静岡市立美術館などの調査を実施した。徳川幕府の直轄地であった甲府勤番支配の実態についても、調査・分析を重ねた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

松尾正人、戊辰戦争と廃藩置県、岩波講座 日本歴史、査読有、第15巻、2014、25-59

松尾正人、戦後裁判史断章、ア・カブ・ス 学術研究、査読無、17巻、2012、140-146

松尾正人、将軍の渾名は『剛情公』、青少年問題、査読無、648号、2012年、38-43

松尾正人、戦時下における多摩の陸軍少年飛行兵学校、多摩の近世・近代史、査読有、1巻、2012年、265-292

松尾正人、関東大震災と多摩地域、中央史学、査読有、35号、2012年、162-184

〔学会発表〕(計1件)

松尾正人、日野の近代史-市史の刊行とその後-、日野市制50周年記念公演(日野市ふるさと博物館主催〔招待講演〕、2012年10月28日、日野市役所505会議室(東京都日野市)

〔図書〕(計2件)

松尾正人、中央大学出版部、多摩の近世・近代史、2012、293

松尾正人、山川出版社、徳川慶喜、2011、95

6. 研究組織

(1)研究代表者

松尾 正人 (MATSUO, Masahito)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00157265